

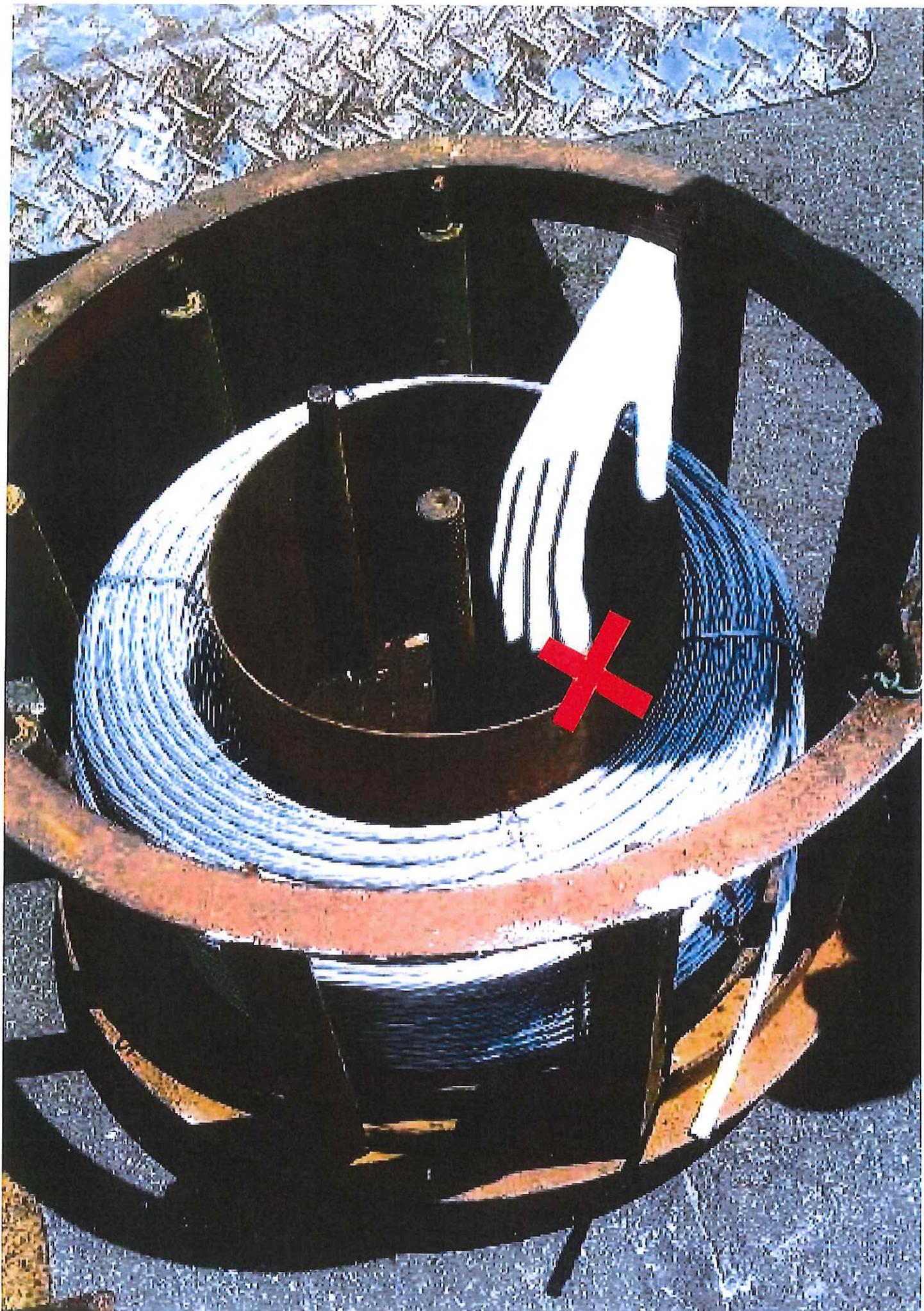
事故報告書

		センター	関係者	発行
報告区分	中電関係分・その他			
受信	30年7月13日11時33分	報告元(同)浜松電気引込工事センター		
事故の種類	感電 墜落 災害 交通 その他(裂傷)			
発生場所	30年7月13日(金) 11時10分 天候 晴れ			
発生日時	場所 浜松市北区内	電柱番号 (15又364)		
罹災者	直営班(専任班・ <u>直営班</u>) 協力工事店 A B C 従事者ランク S A B C 公衆 <u>男</u> 女 死亡 <u>負傷</u>			
	工事店名 ○ × ○ × ○	氏名 △ △ □ □	満年齢 30代	
<p>事故の状況</p> <p>(1) 10時10分頃 作業監督者Aと作業員B・C・D(補助者)で現場へ出向した。</p> <p>(2) 現場はメッセン要の引込線工事であった。</p> <p>(3) 11時00分頃 14号メッセンを使用するため、メッセンリールへ新しいメッセンを入れる準備に入った。</p> <p>(4) 11時05分頃 作業員Bと作業員Dで14号メッセン(200m)をパワーデッキの上をずらしながらメッセンリールに入れようとした際、メッセンの束がメッセンリールの枠の上に引っかかった。</p> <p>(5) 二人で作業をするのは危険と判断し、作業員Dが一人で作業をすることになった。</p> <p>(6) 作業員Dがメッセンをリールに入れようとしたがなかなか入らなかった。</p> <p>(7) 過去にも同様な作業を経験しているがスムーズに挿入できていた。</p> <p>(8) 11時10分頃 体勢を変えリールから浮いた側のメッセンに手を加え引っ張った。</p> <p>(9) その際、リールの入口部分に引っかかっていたメッセンの束が落下し右手人差し指の先端がリールとメッセンの間に挟まれた。</p> <p>(10) 手袋は薄手の作業用手袋(皮手では無い)</p> <p>(11) 指の裂傷がひどかったため119番通報し救急搬送された。</p>				
処置				
休業 2日、全治 日の見込				
備考				



指を挟まれた箇所

負傷した部位



事故審議会報告書

報告元	(同)浜松電気引込工事センター		事故の種類	感電 墜落 災害 交通 その他 (裂傷)	
発 生 場 所	30年 7月 13日 (金)	11時 10分	天候	晴れ	
発 生 日 時	場 所	電柱番号	罹 災 者	直営班 (専任班) (直営班)	協力工事店
	浜松市北区内	(15X364)		従事者ラック S A B C 公衆 (男)	A B C (負傷)
				工事店名 O×O×O	氏名 △△□□
					死亡 30代

県協力会	センター		
------	------	--	--

経過	原因・要因	対策	総括
<p>(1) 10時10分頃、作業監督者Aと作業者B・C・D(補助者)にて現場へ出向した。</p> <p>(2) 現場はメッセンソンの引込線工事であった。</p> <p>(3) 14号メッセンを使用するため、メッセンリールへ新しいメッセンを入れる準備に入った。</p> <p>(4) メッセン14号200mの自重は90kgである</p> <p>(5) 作業者Bと作業者Dで地面にリールを置き、パワーツッキをすらしながら14号メッセンをメッセンリールに入れようとした。</p> <p>(6) その際、メッセンの束がメッセンリールの枠の上に引っかかった。</p> <p>(7) 二人で作業をするのは危険と判断し、作業者Dが一人で作業することになった。</p> <p>(8) 作業者Dが一人でメッセンをリールに入れようとしたがなかなか入らなかった。</p> <p>(9) 過去にも同様な作業を経験しているがスムーズに挿入できていた。</p> <p>(10) 体勢を変えリールから浮いた側のメッセンに手を加え引っ張った。</p> <p>(11) その際、リールの入口部分に引っかかっていたメッセンの束が落下し右手人差し指の先がリールとメッセンの間に挟まれた。</p> <p>(12) 手袋は薄手の作業用手袋(皮手では無い)</p> <p>(13) 指の裂傷がひどかったため、119番に通報し救急搬送された。</p> <p>(14) 監督者の監視・指示はなかった。</p>	<p>原因・要因</p> <p>(9) 今まで同様の作業を経験しているがスムーズに挿入できていた。</p> <p>(10) 体勢を変えリールから浮いた側のメッセンに手を加え引っ張った。</p> <p>(14) 監督者の監視・指示等はなかった。</p> <p>原因</p> <p>(1) 慣れた作業であったため危険予知が不足していた。</p> <p>(2) 手作業で入れ直そうとした。</p>	<p>対策</p> <p>(1) リールへのメッセンの装填は出発前に会社にて行う。</p> <p>(2) 装填がうまく出来なかった場合は手作業をせず金具(バール等)を使用する。</p>	<p>総括 (経過から対策までのまとめ)</p> <p>(1) 対策が習慣化するまでの間装填時には社長が立ち会い作業状況を監視・指導する。(記録を残す)</p> <p>(2) センターも機会を捉え立会う(年1回程度)</p>